

七里ガ浜ホームの門松はお手製です

年末年始に飾られる七里ガ浜ホームの門松は、毎年12月に制作される手作りの品です。

これは、七里ガ浜ホーム内のさまざまなメンテナンスとトラブル対応をしてくださる聖テレジア会管理センターの皆様の手作り品です。師走になると、寒い中、竹を取りに行き、1から制作していただきます。

ご近所の方からも「立派な門松ですね～」とお声を頂戴するくらい、素敵な門松です。

門松には、お正月に歳神様がそれぞれのお家へ訪れるための依代(よりしろ)との言われがあります。

門松の竹は、まっすぐ空に伸び、成長し風にも強いので、「力強く成長し繁栄するもの」という意味があり、古くから縁起の良いものとされてきました。

さらに、竹の切り方には「そぎ」「寸銅」の2種類があり、七里ガ浜ホームは「そぎ」の切り方です。



竹は3本で1セット、左右で6本が決まりで、竹を切る時は、下から上に向かって刀を入れる事も大事なポイントです。



他にも門松の由来には、戦国時代の説もあります。

2023年の大河ドラマ主役の徳川家康と武田信玄が戦った三方ヶ原の戦いで起きた出来事。

この戦いの際に、武田信玄は徳川家康に全く勝てず浜松城に逃げ込みます。この時に武田信玄が「松枯れて竹類(たけたぐひ)なき 朝かな」松は家康の呼び名、竹は武田を意味していて、武田は今後も反映していくという意味の歌を贈ったそうです。



すると徳川家康が「松枯れて武田首なき 朝かな」と返したとか。言葉は似ていますが、真逆の意味を表しており、竹を武田の首に見立てて斜めにそぎの形で切り落としたということから「そぎ」の切り口の名前ができた由来だそうです。

本当に縁起もの！？と思うお話で驚きですが、この説にも門松の由来が伺えます。

12月は、七里ガ浜ホーム門松の季節です